

第2期旭市の教育に関する大綱

4月に策定した「第2期旭市の教育に関する大綱」の重点目標を紹介します。

重点目標

(1)ふるさと旭に誇りをもち、郷土と世界に目を向けてはばたく人を育みます

- ①ふるさと旭の誇る豊かな自然や歴史、産業等を生かし、子どもたちの人間性や郷土愛を育む教育を推進します。
- ②国際社会で活躍できる広い視野をもった人を育むために、主体性・積極性やコミュニケーション能力等を伸ばす教育を推進します。

(2)社会の変化に対応できる確かな学力と生涯にわたり自ら学ぶ姿勢を身につけた人を育みます

- ①新しい時代に必要となる資質や能力を身につけるために、主体的・対話的な深い学び等の学習活動により、実社会で役立つ知識・技能の定着や思考・判断・表現する力などを育成します。
- ②社会における自らの役割や将来の生き方について考え、より高い目標に向かって努力する人を育むために、職場体験等を通して成長の段階に応じたキャリア教育を推進します。

(3)豊かな人間性や道徳心をもった思いやりのある人を育みます

- ①幼少期の健やかな成長や家族のコミュニケーション等を充実するために、教育の原点である家庭教育や幼児教育を支援します。
- ②命を大切にするとともに、他人を思いやり、困難を乗り越えることができる人を育むために、人間関係づくりや道徳教育の一層の充実を図ります。

(4)健やかでたくましく活力あふれる人を育みます

- ①生涯にわたって、明るくたくましく生きることができるよう、基本的生活習慣の確立や運動に親しむ態度の育成を通して、健康と体力の向上を図ります。
- ②子どもたちの健やかな体を育むために「食の郷・旭」の豊かな恵みを実感できる食育を推進します。

(5)学校、家庭、地域が一体となり、まち全体で子どもたちを守り育てる体制づくりを進めます

- ①子どもたちの学びや安全をサポートするために、保護者や地域の方々及び関係団体と共に、まち全体で見守り、学校を支援する体制づくりを推進します。
- ②社会に進んで関わろうとする子どもたちを育むために、市内外の各種交流活動や文化・スポーツ活動及び環境に関わる取り組み等学びの機会を充実します。
- ③市民が生涯学習やスポーツ、ボランティア活動等に積極的に参加し、明るく生きがいをもって過ごすことのできる体制を整えます。

あさひ輝いた人々 第21回

歌人、実業家など 多くの才能の持ち主

白井 大翼 (1885~1947年)



白井大翼は明治18(1885)年に西足洗で生まれ、幼いころの名前は千松大翼でした。弁護士、実業家(会社社長)、大学講師、短歌の歌人と、いろいろな才能を発揮しました。中でも歌人として、人間の幸せは芸術を理解することであると考え、歌の道を追い求め、多くの歌集を発行しました。

実業家としては、大正2(1913)年に帝国大学(現在の東京大学)独法科を卒業し、大安生命保険会社を設立して会社役員となりました。同じ年に結婚して白井姓になり、昭和19(1944)年に日本縫糸統制会社社長に就任しました。

学者としては、大正11(1922)年に弁護士事務所を開

業し、併せて法政大学講師にもなりました。昭和8(1933)年まで講義を続けました。

最も力を入れたのは短歌でした。大正6(1917)年に雑誌「珊瑚礁」を創刊しました。そして、大正8(1919)年に「霸王樹」を創刊し、大正14(1925)年には第一歌集「私燭」と、次々に歌集を発行しました。昭和14(1939)年には、霸王樹創刊二十周年記念祝賀会を行い、斎藤茂吉など多くの有名人も出席しています。

昭和22(1947)年に亡くなりました。

一つ分野だけでなく、数多くの夢を持って努力し、実現していく大翼の姿は、私たちも見習いたいところです。

大翼の作品で、旭の矢指ヶ浦を歌った歌に「砂浜やならびあぐらみ網つくろふ漁士におよべり午後の日のかげ」があります。

砂浜の冬の日だまりで漁師があぐらをかいて、網を繕っている姿を詠んだもので、大翼の故郷を温かく見つめる気持ちが伝わります。



白井大翼の歌碑